

防災力を高めるための防災教育に関する研究

—その2 幼児自らが学ぶことのできる

早期防災教育に役立つ教材開発(1)—

正会員 ○ 土屋 絵里*1
正会員 久木 章江*2
正会員 石川 孝重*3

防災教育 幼児 絵本
地震対策 家庭 幼稚園

§ 1 はじめに

関東大地震、兵庫県南部地震、新潟県中越地震とこれまでに大地震で数々の被害が発生した。そして今世紀前半には南海地震や東南海地震の危険も高まっている。いつ、どの規模の地震が起きるのかは予測できない。大地震が発生した際の被害を最小限に留めるために、日常の備え、災害に強い住環境づくり、自助・共助・公助といった防災力の向上が必要である。また、これらの意識は幼児期といった早期に根付かせることも重要である。

なお、幼児期の子供の環境を考えた場合、幼稚園等では防災訓練が実施される場合も多い¹⁾が、家庭での防災教育は十分とはいえない。そのため本報では家庭での防災教育の必要性・実態を検証し、子供と親と一緒に防災対策を心がけるきっかけにもなる絵本教材を提案した。

§ 2 家庭における早期防災教育の必要性

家庭における防災教育の必要性・実態を分析し、絵本の作成に反映するため、2004年9月、3～5歳の子供をもつ親を対象に調査を行った。東京都八王子市 K 保育園で30部、新潟県新津市の N 保育園で21部の回答を得た。

子供の地震に対する認知度を質問した結果を図1に示す。八王子市では地震を認知している子供が多いが、新潟市では地震を知らない子供、言葉は分かるが理解していない子供が多い。

さらに家庭で防災教育をしているか否かについて質問した結果、八王子は80%の親

が「家での対応も教えている」と回答したが、新潟では24%となっている。教えている防災教育の内容を質問した結果、「机の下に潜る」「むやみに外に逃げ出さない」「防災頭巾をかぶる」という項目は半数以上の親が教えていると回答した。そこで子供が知っておくべき地震時の対処法とは何かを質問した結果を図2に示す。

「必要」という回答が多かったものは「机の下に潜る」「むやみに外に逃げ出さない」「防災頭巾をかぶる」の項目であった。「親の役目である」という回答が多かったの

は「玄関のドアを開け、逃げ道の確保」「火の始末」「避難時に持ち出す物は最小限に」という項目であった。

さらに家庭で実際に実施している地震時の備えについて質問した結果を図3に示す。

八王子の幼稚園は77%、新潟の幼稚園は半数以上が家庭で実施している地震時の備えがあると回答した。

子供に直接防災

教育を教えていない場合でも、地震については関心があると考えられる。具体的な内容は「火元に燃えやすいものを置かない」「棚やタンスの上に重いものを置かない」「消火器を備える」などの項目が挙げられた。そのほか「家具は作りつけにした」「食器棚に留め具(結束バンド)を付けている」などの回答もあった。

次に、防災絵本の必要性について調査した結果を図4に示す。

多くの家庭で防災絵本が必要と回答された。

また、防災教育は大切だと理解するがどう子供に伝えたらよいかかわからないという意見も挙げられた。そのため、絵本といった教材を利用した防災教育は、子供にも、読み聞かせる親にも親しみやすく、親が防災知識の少ない場合でも、有用性があると分析できる。

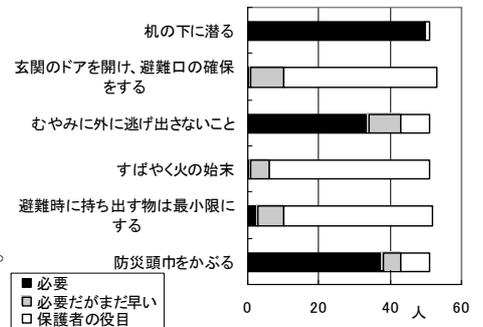


図2 子供が知っておくべき地震時の対処

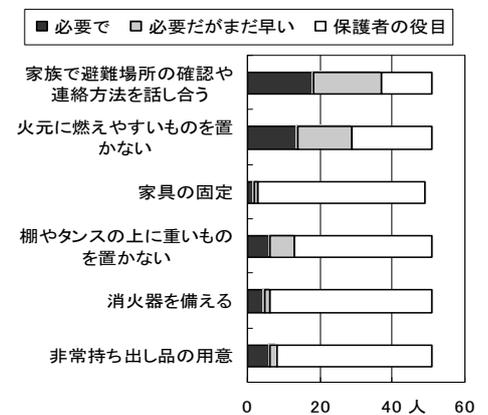


図3 家庭で実施している地震時の備え

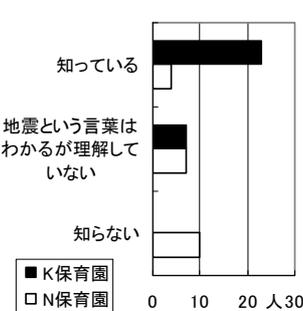


図1 子供の地震認知度

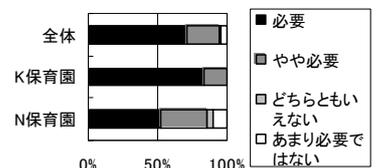


図4 防災絵本の必要性

また導入年齢については、3歳の場合、「どちらともいえない」「あまり必要ではない」という回答もみられたが、4,5歳の子供には90%以上の方が「必要」と回答した。

このアンケート調査により、幼児期からの防災教育の必要性、家庭での防災教育の実態・必要性を把握することができた。なお、この調査は新潟県中越地震発生前の調査である。そのため、地震後は、防災教育に対する意識が変化している可能性があると考えられる。

§ 3 絵本教材の試行および作成

そこで、3～5歳の子供に理解できる「身の安全の確保」を目標とした家庭内での地震時の対処法を教える絵本を作成した。具体的に伝えるべき内容は、「机の下に潜る」「むやみに外に逃げ出さない」「防災頭巾をかぶる」「大人の話聞く」の四つの柱を中心とした。絵本教材の構成およびその分析を表1に示す。

表1 絵本教材の構成及び分析

	形式	方法	効果	キャラクター
構成	ストーリー式で、クイズ式のもの	子供の「なぜ」に答える	繰り返しの効果を狙う	動物
	物語式のなかに「なぜなぜ」のような雰囲気が含まれている形式	主人公が友達に地震対処法を教えるという内容で自分も学ぶ	知識を分かりやすく得られるようにし、子供の理解度を高める	子供がよく知っている動物を自分なりにアレンジしたものとする
分析	読み聞かせの「親子で学ぶことができる」という利点と、クイズ式の「子供の好奇心を刺激する」という利点の両方を生かすことができる	子供の「なぜ」という疑問に答え、自分と主人公を同化させて地震対処法を学んでいく絵本は3歳児に適している	頭で覚えるだけでなく、絵本のリズムを体で覚え、体感として絵本に打ちつけられる	アンケート調査で評価が高い内容を考慮した。絵本の内容や構成は客観的なものとするが、キャラクターは身近に感じられるものにした

これらをもとにストーリーを構成し、絵本を試作した。防災絵本を読むことで、子供は話を楽しみながら地震対処法を覚えることができる。また読み聞かせ形式により親子で防災を考えるきっかけになることを期待している。

§ 4 絵本教材の評価

作成した絵本の防災教育に対する有効性を検証するため、東京都近郊在住の3～5歳の子供をもつ親を対象に作成した絵本の評価に関する調査を行った。作成した絵本が3歳児に適していると思うか質問した結果を図5に示す。

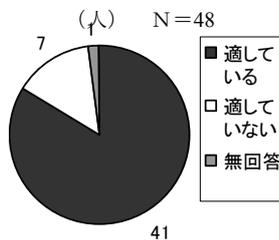


図5 3歳児向け絵本としての評価

大部分の親は「適している」と評価した。次に絵本に対する子供の理解度を質問した結果を図6に示す。

「理解している」「だいたい理解している」という回答が

3/4を超え、「全く理解していない」人はいなかった。今回作成の絵本は3～5歳の子供がほぼ理解できる内容であったことがわかる。また絵本の構成・形式・内容・キャラクターについても評価を得た結果、「適している」という意見が大部分であった。具体的な改善点として挙げられた「文章の区切り方」「ひらがな表記とカタカナ表記の区別」等を参考に修正を行い、絵本を完成した。提案した防災絵本の内容の一部を図7に示す。

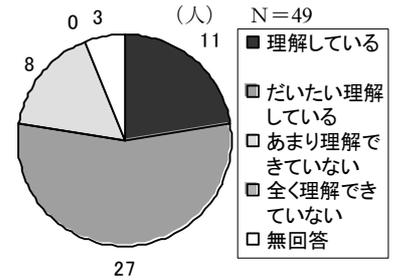


図6 子供の理解度



図7 作成した防災絵本（一部）

§ 5 まとめ

近年、多くの大地震が発生し、人々の防災意識は高まっている。いざというときに自分の身を守るためには、幼児期から正しい知識を理解し、行動できるようにすることは重要であり、防災絵本という教材は、そのためのひとつのツールとして位置づけられる。

また本報で注目した幼児期の家庭における防災教育は、必要と考えられつつも、実施されていないのが現状である。理由の一つは親自身が知識を有していないということもあったため、本教材が親子で防災を考えるきっかけになれば効果も高まると考えられる。なお幼児の理解度も比較的高かったことから、知識を吸収する成長段階の幼児を対象とした絵本教材は有効であると考えている。

ヒヤリング・アンケート調査にご協力戴いた方々に感謝する。また、絵本作成にあたっては、文化女子大学副手 飯泉知花氏および武蔵野大学 講師 伊村則子氏にご協力頂いた。ここに深謝する次第である。

【引用文献】

- 1) 飯泉知花、久木章江：幼児期の防災教育のあり方と教材の作成、日本建築学会大会学術講演梗概集(E-2分冊)、pp.739～740、2004年8月。

*1 元文化女子大学
*2 文化女子大学住環境学科 助教授・博士(学術)
*3 日本女子大学住居学科 教授・工学博士

*1 Student, Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ.
*2 Assoc. Prof. Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ., Ph.D.
*3 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.